保育の描画実践における保育者の指導論(Ⅱ)

－描画指導の難しい子どもへの指導－

平沼　博将

（京都大学大学院教育学研究科）

【問 題 と 目 的】

保育における描画指導は特に難しい領域であるといわれる。その理由としては，描画指導に対する考え方が描画指導の是非についてすら共通認識とならないほど多様であることや，実際に描くことに苦手意識をもち，「描けない」子どもが少なからずいることが挙げられる。土方（1988）は，描画指導をその内容から，間接指導（物理的な条件整備と，描く意欲をかきたてることばかけなど）と直接指導（描画活動の内容，描画表現のありかた，しかた，方法に直接たち入る指導）に区分しているが，その具体的な内容については，これまでもあまり検討されてこなかったのではないだろうか。そこで，今回は，保育者の「描画指導の方法」，保育者が考える「保育における描画活動の意義」について調査した結果を報告する。

【方　法】

調査期間：1998 年 8 月 25 日から 9 月 26 日

対 象 者：京都市内の保育所の保育者 75 名（平均年齢は 34.7 歳）

手 続 き：これまで描画指導が難しかった子どもについて，どういった子どもであったか，また，どのように指導したか(**質問１**)，保育の中で子どもたちに絵を描かせることは必要だと思うか，また，その理由は何か(**質問２**)，について自由記述形式で回答を求めた。

【結　果】

有効回答数は質問 1 が 57(76%)，質問 2 が 49 (65.3%)であり，これらを分析の対象とした。

１．描画指導方法の分類

質問１への回答のうち描画指導の方法に関する記述（78）を間接指導，直接指導に大別し，さらに下位カテゴリーに分類した。カテゴリーの典型的回答（「」内）と記述数（【】内）を以下，記述数の多い順に示す。

＜間接指導＞

「（みんなの中で）ほめる」「自信を持たせるように評価する」【13】,「友だちと一緒に描かせる」「5, 6 人のグループで描かせる」【10】,「保育者と一対一で描くようにする」【７】,「（子どもが緊張しないよう）楽しい雰囲気をつくる」【６】,「イメージをふくらます言葉かけをする」「保育者が意味づけをしてあげる」【４】,「子どもとの信頼関係を築く」【４】,「他の活動やあそびの中で自信をつけさせる」【３】,「誰でもできるような簡単な課題を多くする（その中で自信をつけさせる）」【３】,「その子にあった素材やテーマを考える」【３】,「日をかえて描かせる」「興味を示したときに自由に描かせる」【３】「表現したくなるような生活経験をさせる」【２】,「造形活動やスタンプ押しなどを多く取り入れる」【２】,「毎日のように描画造形活動をする」【１】

＜直接指導＞

「友だちの絵を見られるようにする（見せる）」【６】,「保育者も子どもと一緒に描く」【６】,「子どもの手を持って一緒に描く」「保育者が点線で描いてなぞらせる」【２】,「（人物を描く際に）実際に体を見て考えさせる」【１】

＜その他＞【２】

２．保育における描画実践の意義について

質問２への回答のうち保育の中で描画活動を行う意義の理由付け（98）を分類した。カテゴリーの典型的回答（「」内）と記述数（【】内）を以下，記述数の多い順に示す。

「（自己）表現の手段だから」【40】,「表現することの楽しさを味わえる，伝えられるから」【10】,「保育者と子どもとのコミュニケーションの場となるから」【８】,「子どもを理解できるから」【８】,「子どもの成長，発達に役立つから」【８】,「子どもと共感し合える活動だから」【６】,「書きことばにつながる表現手段として必要」【５】,「子どもたちが生活体験を再構成できるから」【３】,「精神衛生上の効果がある」【２】, ＜その他＞【８】

【考　察】

描画指導については，間接指導に分類されるものが大半を占めたが，友だちの絵を見ることや保育者自身が描くといった直接指導も見られた。また，描画実践の意義については，子どもの自己表現，書きことばにつながる表現など表現手段の確立，保障といった理由が目立った。